

島根県大田市 大森銀山地区



島根県中央にある大田市の山間部に位置し、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の構成資産のひとつです。町並みは、16世紀以降、銀の生産に携わる人々の居住や生産の場として発展しました。17世紀のはじめに江戸幕府の直轄領（天領）となると、幕府は銀の生産活動の場を柵で囲って、人や物資の出入りを管理しました。大森銀山地区は、この「柵内(さくのうち)」にあたる銀山区域と、柵の外の北側に形成された町場の大森区域からなります。大森区域は江戸時代を通じて石

見銀山とその周辺150余村の支配の中心として発展しました。

昭和62年12月に重要伝統的建造物群保存地区に選定されて以来、町並みの整備も進み、伝統的な建造物も現在286棟を数えます。谷あいを通る銀山川沿いの道筋には、江戸時代以来の商家や寺社、武家屋敷が混在しながら続く特徴的な町並みを見ることができます。また、重要文化財熊谷家住宅、代官所跡、地役人遺宅旧河島家住宅などは一般に公開されており、内部を見学することができます。

温泉津地区



温泉津は、名前のとおり温泉のある港町で、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の構成資産のひとつです。16世紀後半から石見銀山の外港として、江戸時代には北前船の寄港地として繁栄しました。町並みは、温泉津湾奥の谷筋に流れる温泉津川を中心に展開しますが、街路や水路からなる町の骨格は、元禄5年(1692)の町屋敷絵図の様子とほとんど変化がありません。保存地区西側の港付近では廻船問屋として栄えた有力商人の広い敷

地割が残り、東側の谷地形奥部では源泉を中心に温泉旅館や浴場が集まるなど、海運業と温泉業の性格を併せもつ港町として、平成16年7月に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。歴史的な建造物は江戸後期から昭和初期までの町家が多くを占め、寺社や町家、洋風の住宅、木造三階建の旅館など、町の移り変わりを伝える様々な建築が良好に残されています。



大森銀山地区
JR大田市駅からバスで約30分

温泉津地区
JR温泉津駅からバスで約7分